



(令和6年2月～令和6年3月分)

【令和6年3月】

令和6年度の予算案を発表しました。2月26日開会の市議会で審議いただくことになりました。

市長に就任してから痛感したのは、「少子高齢化」が市民生活や実体経済に重い影を落としているという現実です。さらに、人手不足は各種業界に重くのしかかり、社会保障費の増大は、皆さんの生活実感を悪化させています。

「人・モノ・お金」すべての総量が縮小していく中、他から「取り残されない」まちづくりが不可欠です。都市部に位置する八幡も、「まちの魅力」を磨き、働く先・住まう先・訪れる先として「選ばれる」まちで在りつづけなければなりません。

そんな観点で、石清水八幡宮駅周辺整備に向けたまちづくり構想への費用や、子育ての負担感を軽減する「小中学校給食費の負担軽減」「こども医療費の無償化」、教育・保育環境の充実に努めました。さらに、高齢者の皆さんが、いきいきと健康に過ごすための健康施策、公共交通再編検討などに限られた財源の中ではありますが、配分をさせていただきました。

令和6年度も頑張っまいます。よろしく願いいたします。

【令和6年2月】

皆さん、こんにちは。昨年11月に市長に就任させていただきました、川田翔子です。これからは、このコラム欄も前市長から受け継ぎましてリニューアルし、皆さんへ色々な日々の短信をお伝えしてまいります。

さて、題名にも引用しました「徒然草」第52段には、石清水八幡宮に詣でた仁和寺の法師の話がでてきます。ひとり八幡を訪れ、ふもとの高良神社や極楽寺を参拝して、肝心の本殿が男山山頂にあることを知らずに帰ってしまったことから、少しのことにも「先達(先導者)」

は必要であると結ばれています。

しかし、その法師も男山に登っていく人が多いことを疑問に思ったときに、道行く人に声をかけて尋ねていけば、「先達」を得ることができたのかもしれない。

私もまだまだ経験不足なこと、八幡で知らないことばかりです。恥ずかしがらず、怖がらずに頭を下げ、「教えてください」とお声をかけて、色んな方に教えを乞うて歩き続け、山道を登っていきたいと思います。思い浮かぶ背中には沢山あります。どうぞよろしく願いいたします。